

日常生活に息づく美

芹沢銈介生誕130年 仙台で企画展

大芹沢銈介美術工芸館と、宮城野区の同大ギャラリーミニモリで開かれている。

工芸館では芹沢が制作した着物、のれんなど約180点を展示。四季の草花をデザインしたびょうぶ、泳ぐ鯛を文様にした着物、「風」の字をあしらったのれんなどの代表作に加え、絵付けに対する芹沢の確かな腕前が分かるスケッチが目を引く。

ミニモリでは、仙台七夕まつりをモチーフにしたカレンダーなど日用品約250点を紹介。人間国宝の作品は高価

でなかなか手が届かないため、もっと身近に楽しんでもらおうと芹沢自らデザインを手がけ、職人が分業で生産した数々だ。

堀咲学芸員は「芸術の世界と、生活に美を届けることを心がけた工芸品と、芹沢の顔の画面を楽しんでほしい」と話す。

工芸館の展示は18日まで、土日休館。ミニモリの展示は20日まで、月曜休館。各一般500円、共通チケット一般800円、大学生以下無料。工芸館022(717)3318。



型染染の重要無形文化財保持者(人間国宝)芹沢銈介(1895〜1984年)の生誕130年を記念した企画展が、仙台市青葉区の東北福祉



仙台七夕をデザインした1972年8月の型染カレンダー（ミニモリに展示）